令和八年　年頭所感

公益社団法人日本ペストコントロール協会
会長　山口健次郎

令和８年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より、当協会の事業運営に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本年は昭和元年（1926年）から起算して満100年にあたり、改めて時代の移り変わりの大きさを感じる節目の年でございます。振り返れば、この100年は社会構造も価値観も大きく揺れ動く激動の時代でありました。その歴史を礎に、我々は新たな希望と決意をもって、次の百年へ歩みを進めてまいりたいと存じます。

さて、昨年を振り返りますと、国内では四半世紀に及ぶ自公連立の歴史が幕を下ろし、自民党と日本維新の会による新たな連立政権が発足しました。また、憲政史上初の女性首相が誕生し、少子高齢化や物価高対策、外交・安全保障政策など、多くの分野で新政権への期待が高まっております。世界に目を向けると、ウクライナや中東での紛争の長期化による資源価格の変動やトランプ関税、中国経済の停滞などの影響により、依然として先行き不透明な情勢が続いております。一方で、生成AIをはじめとするデジタル技術の革新が進み、社会や産業の構造転換が加速しており、ペストコントロール業界においても、デジタル技術の活用に係る研究への参画等を継続し、時代に対応した事業展開に努めてまいる所存です。

さて、本年の当協会の事業活動においては、会長就任時に掲げた（１．認知度向上、２．社会的地位向上、３．事業環境良化）を軸に、次の課題に取り組んでまいります。

まず挙げられるのは、日本標準職業分類への「ペストコントロール従事者」の新規立項です。業界の正しい位置づけと社会的評価を得ることは、職域の拡大に不可欠であると考えており、既に新設日本標準産業分類と同様に、関係各所との連携を深めながら働きかけを継続してまいります。

次に、会員増強による組織体制の強化です。会員を増やすことは、業界団体としての発言力の拡大であることばかりではなく、多様な経験や技術や価値観の融合をもたらし、業界全体の底力を高めるものです。地区協会を中心に入会促進に取り組むとともに、資格制度の充実、時代に合った基準の策定、災害時における相互支援、迅速な情報提供・共有などを通じて、会員一人ひとりが安心して活動できる環境の整備に努めてまいります。

また、次世代を担う若手人材の育成にも注力いたします。業界の持続的発展には、未来を支える人材を継続的に育むことが重要でありますが、我が国全体として若年層が減っている状況下において我々ペストコントロール業界においてもイニシアティブを示す人材をどのように循環させるべきかについて継続した検討を進めています。

さらに、昨年より新たな取り組みとして、厚生労働省の登録機関として実施している「防除作業従事者研修会」にeラーニングを導入いたしました。会員の皆様には本事業の周知にご協力賜り感謝申し上げますとともに、本事業を通じてペストコントロール従事者の技術と知識のさらなる向上を図ってまいります。

近年、気候変動やグローバル化の進展により、害虫・害獣の分布域が拡大しているほか、各種感染症対策や食の安全に対する社会的関心も一層高まっており、ペストコントロールの重要性は一段と増しています。

今後もこれまで培ってきた技術と信頼を基盤に、我が国の快適な生活環境を維持・向上するという社会的使命を果たすべく、一つ一つの課題に真摯に向き合い、諸事業に全力で邁進してまいりますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

皆様方のますますのご発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。